



## 性格形成論

(一)

富山大學教授

波根治郎

一

一方では悪戯ばかりして嫌はれる子がいるかと思えば、他方ではいつもにこにこして友達を助けてやつたり、喧嘩の仲裁までするような良い子もいる。人間というものはどうしかう色々な性格が生れて來るのであろうか。

人間の性格というものは早くて一歳半、遅くても三歳半でその輪廓が現はれて來ると言はれる。幼児は親以外の大人を餘り知らないから親を理想とする。男兒は父親を、女兒は母親を理想とし易い。何が善であり、何が悪であるかは親からは認されるか、否認されるかによつてきまる。「うそをつくと何故悪いですか」と問うと「お母さんから止められているから」と言つた答をする。この邊りから道德的意識が芽生えて來るので親の幼児に對する言動を餘程注意しなければならぬ。

幼稚園に入ると保育の先生や友達の言動が影響する。年齢

と共に親や先生の指示や禁止の理由を知りたがる故、納得させつゝ指導することが大切である。

悪戯というのは幼児のもつ基本的要求を充足するのに人々から承認され、肯定される仕方を知らない時に生じる行動であるということを知らねばならないと思う。何でもないことに疇癪を立てるといふ悪癖も、それでは先生や友達から受けいれられない、認められないということ、自然と體驗の中にわからせてゆきたいと思う。

一一

人間の性格形成に影響する因子には色々なものがある。先づ第一に知能と性格とは如何なる關係があるだらうか。

知能の高い子供はどうしても知能の低い子供よりも何が善であり、何が悪であるかについてよく知つてゐるし、又それによつて行動し易い。少くとも迷うことが少い。この事は犯罪少年中、精神薄弱兒が正常兒の四倍もいることから明らか

かである。随つて私共は知能の高低を知らずに唯子供の行動のみを見て、簡単に良い子、悪い子と決めてしまつたり、就中好悪の情を示したりすることは警戒しなければならぬと思ふ。

第二に健康と性格との關係は如何。元氣で活動的な幼児ははつきりした進取の態度をとるに對し、病弱で元氣のない子供は兎角ちぢこまつて萬事控え目になり、又情緒不安定でいらいらし易い。かゝる行動・態度が習慣化されるところに性格が出来てゆく。身體の大きく腕力の強い子供は過度に自信をもつて餓鬼大將になり易い。弱くて小さい子供は友達の活潑に遊ぶ姿を羨望・嫉妬の眼で眺めることなきやう配慮が必要である。

事實社會的不適應兒には不健康な者が多い。(尤もその不健康の原因が貧困であつて、貧困と不健康と知能低劣等が重つていることが多い。)不健康兒は情緒が不安定になり易く、又劣等感情をもつことが多い。尋常な手段では健康兒に對抗出来ないで狡猾になる機會をもつわけである。ヒールイは百人の不適應兒と適應兒を比較して次のような表を出している。(註一)

知能と同様健康も素質に因る面が多いが、最近の學說では知能でさえ先天的因子と後天的因子とは五分五分と言われている。健康に於ては尙更のこと、大人の配慮によつて不健康を防禦し、ひいては強く正しい性格形成の一契機たらしめたと思ふ。

事	例	不適應兒	適應兒
妊娠中母の精神的苦惱		一〇	三
妊娠中母の疾病		一三	六
乳兒脚氣むつかしくすぐ泣く		一四	五
用便の躰けの困難		三一	一三
幼兒期體重の輕過ぎ		一一	五
幼兒期大病或は多病		二八	八
幼兒期頭部に負傷		五	〇

### 三

第三に家庭と性格との關係であるが、幼兒は親の態度をすべて學びとらうとする。併し反面幼兒でも或る食物を無理に食へるように強いられるとその食物が嫌いになることがあるように、子供の躰けの點に於ても親の強制は逆になりと反抗を招來することがあるので注意しなければならぬ。

今更申すまでもなく貧困な家庭、不道德な家庭、怠惰な家庭、破れた家庭(親の不倫)、住居が狭過ぎて子供に悪影響のある家庭、親の不在勝の家庭、實親のいない家庭等から好ましくない性格の子供が生れてくる。

子供の道德的意識と接觸する周りの人々のそれとの相關係を調べてみると親が最高で、次が友達——先生と言う順序

になつてゐるのをみても私共は「子は親の鏡」という言葉を今更乍らじみじみと味う次第である。

次に教師・友人と性格形成の關係であるが、同じ教室で學ぶ子供同志の道德的意識の相關係數が〇・六六に對し、異なる教室の子供のそれは〇・二三という數字を見れば教師の影響の少くないことを痛感させられる。(註二)

更に子供は遊び仲間の人から認められたいという基本的要求が強いので、その屬している遊び集團の性格が決定的に子供の性格を規定してくる。またかゝる集團心理を理解して指導に周到的配慮を拂つておれば、計畫的に指導プログラムを實施してゆけば必ず短期間に効果は上つてくるものである。

次に子供は印刷されたもの、例えば繪本・漫畫等から強い感銘を受けるので常に俗悪なものを避ける注意が必要である。

最後に子供の住む部落、地域社會の問題である。健全な遊び場を増やすこと、住宅を明るく住みよくすることによつて不良性格を一人でも減少することが出来る。或る町の貧民窟を一時全部立ちのいて貰つて、その跡に小さつぱりしたアパートを建て、前に住んでいた人々をそこに戻し住ませると清潔・健康状態・社會性・時間觀念・子供の躰け等色々な點で目立つて良くなつたとその町の校長が監督官廳に報告している實例がある。

以上六項目に亘つて幼児の性格形成に影響する因子を概観して來たが次に少し實例を擧げてみたいと思ふ。

#### 四

子供の反抗的態度は人に愛されたいとか、受け容れられたいとか、認められたいとか、欲しいものを食ふたいとか言うような基本的要求が阻止されるところに原因のあることが多い。承認されると快感を感じ敵意的態度を示す、否認されると不快を感じ敵意的態度を示す。非社交的な子供がその故に他人から嫌はれる(承認されない)と、益々、非社交的となり、愛されると濃厚乃至濃厚な性格となる。

Aは三歳頃家庭で非常に亂暴者であつたが、幼稚園に入つて六歳頃には温順な良い子になつた。この子は承認を求めると要求が強く、幼時表現が粗野で拙く、家族から笑はれ疳癪持ちになつたが、幼稚園に於て優れた保育の指導により可成りよく歌つたり、お話ししたりすることが出来るようになり、家庭に於ても家族の人々よりもてはやされ(承認される)ことによつて要求が充足され、情緒の安定を得、劣等感情より救はれ適應状態に入つたわけである。

BとCとは双生児の六歳児である。Bは幼児ながら放浪癖あり、盗みはする。或る時は怒つて我が家に放火した(未遂に終つたが)ことすらあり、親は我が子を「不従順、疳癪持ち、生意氣」とこぼしているに對し、Cは従順で落着いた子供である。同じ家庭に生れ育つ双生児でありながらどうしてこんなに違つた性格になつたのであらうか。事例研究をしてみるとBは難産で醫師の手によつて機械で出した時に若干頭

部に傷害を受けた。(内部の爲家庭では氣が付かなかつた)。

乳兒期はよく泣く子であつた。知能指數は八十二である。衝動的で落着かず、漫聲に書いてある悪戯を實演して親を困らせ、或は驚かす。偶々父親が商業に失敗し、氣持がいら立つていた爲、Bを嫌つて「Bと一緒に居るのは蛇と一緒にいるようだ」等と教養のない言葉を出し、時には打つこともあつた。

Cは先に生れた子で安産であり、知能指數は九十五、常に靜かで満足さうに生活を樂しんでいる。

結局Bは難産の爲、身體的障害を受けており、その爲に情緒が不安定で落着きなく行動が衝動的である。更に父から嫌はれ時には打たれ、愛情を求め要求・承認を求め要求が絶えず阻止され、而も幼兒にとつて最も害のある恐怖の意識に陥ることある爲、兩々相まつて不良な行動が現はれて來たものである。Cと違つて何か突飛な事を仕出かさねば家族や隣人の注意を自分に惹きつけられない。換言すれば承認を求め要求が充足されない。それ故歪曲された方法によつて自分の要求の充足を企圖し(意識的・無意識的に)、漸次人々により是認されない——嫌はれる性格を形成していつたわけである。

かゝる氣の毒な問題の子供Bも愛情と理解深き教師のガイダンスによつて徐々に性格が改善されてゆくのである。何故ならばBは今まで自分を理解してくれる大人を持たなかつたのである。

## 五

子供に健康を與えよ、愛情と理解のある家庭に抱け、明るく健全な社會に育くめ——そこに子供は自ら適應狀態に入る遊びに我を忘れ、友達と仲良く楽しく遊んで心も身體もすくすくと強く眞直に伸びてゆく。

下手に叱つたり、罰したりすると小火が却つて大火になることがある。喧嘩をする子供も只叱つたり、止めたりするのではなく、子供の主張を一度聞いてやりたい。正しい自然な要求を抑へつけていると無口な退嬰に墮する。

いつも正しい子供、いつも悪いことをする子供という者は減多にいない。そこに教育の樂しみがあり、効果がある。

私共は子供達の不適應の兆候を見付けたならば、その原因を探索したい。原因を除去しつゝ指導方策を科學的に打建てていきたい。ソーンダイクも「人間の道德性は知性よりも、環境の影響を受け易く、それだけ教育の効果が期待し得られらる」と言つている。(註三)

私共は子供達の行動なり性格が環境との如何なる力動的關係に於て生れて來たものであるかを先づよく辨え、環境を、就中人的環境を淨化しつゝ子供と共に良き習慣を作つていくことが大切であると思う。

一、強過ぎる要求、多過ぎる要求の轉換を圖り、情緒の不安定・劣等感を除くことによつて心の健康を與えること

なる事が果してよいかと言ふ事になり、之は大單元をやめて小單元で行くべきだという事が全員の意見でありましたので先づ一ヶ年の小單元をきめて行く事にいたしました。

#### 四

小單元の次には之を選んだ目標をあげ、次はこの目標に従つて幼児の生活内容を明示する事になりました。之は保育要領に示された「幼児の楽しい経験」を幼児の生活の中に生かし展開させてゆくので、リズム、音楽、見學、お話、自然觀察、自由遊び、繪畫製作、休息、人形芝居、劇おそび、健康教育等幼児生活の全部を盛り込んで行くのであります。

この中に盛り込まれたいろ／＼の経験はみな教育目的を達成する爲に一つ／＼が價值を持つものでなければならぬのであります。遊びは遊びでも、教育の一つの設計でありますから決して迂濶に作る事は許されません。

以上で現在までの委員會の動きをお傳えいたしました。前途は益々多難、一朝一夕には成し遂げられぬ大仕事ではあります。愛する幼児の生活を一日も早く正しい軌道に乗せて見たい、舊い殻を抜け出した雛鳥が、自由に明るく伸び／＼とあそぶ状態を思いつく、たゆまぬ努力と研究を續けて居ります。幼稚園、保育所カリキュラムが全國でそれ／＼編成されつゝあることは誠によろこびにたえません。私共も一意専心その道を辿つて居ります。以上東京の委員會の様子を中間報告いたします。

#### (七頁より)

二、好ましい行動の爲し易いよう、好都合の條件を作つてやること

三、保母先生の間、幼稚園と家庭との間、両親の間等に保育上意見の食い違ひのないようにすること

を附け加え皆様と共に幼児達の幸福を祈りたいと思ひます。

註一 Healy, William, and Bronner, Augusta, *New Light on Delinquency and Its Treatment*, Yale Univ. Press, 1937, 226 pp.)

註二 Hatshorne, H., and May, M. A., *Studies in the Nature of Character*, Vol. I, 1928, 306 pp.

註三 Thorndike, *Educational Psychology*, Vol. III, 1914, 313 pp.) (ウタへ)

#### (一一頁より)

衣服はよく拂つて外の泥を持ち込まぬ様にします。ブラツシがあれば、子供たち自身お互に拂ふことが出来ます。手洗ひも洗顔も勿前一人で出来る様に躑けておけば、さう世話が焼けないでせう。

保母さんの中に戸外の嫌いな方があるのには一番困ります。保母さん自身の體の状況もあるのでせうが、卒先して戸外になじんで頂きませう。お日様の恩恵は發育さかりの子供には實に大切であります。そしてその影響は今に表れることが少く將來にみえることをよく知つておきたいものです。立派な子供にしたいものです。